

事務事業名	芦安農業集落排水事業特別会計繰出金		所属部局	建設部		単位番号	7129					
			所属課室	下水道課		課長名	新津 元博					
	☐ 実施計画事業		所属担当	総務管理担当		担当者名	矢崎 幹男					
基本政策	基本計画体系	Ⅲ	うるおいと利便性のある都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
政 策		14	上下水道の整備	事業区分	01	一般	06	01	02	060	01	
施策		23	下水道等の整備		☐ 国の制度による義務的事業	☒ 施設等維持管理事業						
					☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業						
					☐ 市の制度による義務的事業	☐ その他の事業						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度) 年度)			法令根拠	下水道法							
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載				事業費の主な内訳 (24年度 決算見込)							
	・芦安農業集落排水事業特別会計への繰出金				項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)							
	・一般管理費、農業集落排水運営費、公債費に充当している。				管理費繰出金 190							
	・管渠内面TVカメラ調査を実施。				事務費繰出金 14,297							
					公債費繰出金 9,431							
				計 23,918								

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	・農業集落排水事業特別会計への繰出金の支出
25年度活動予定	・農業集落排水事業特別会計への繰出金の支出
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
・農業集落排水事業の全体計画区域内の住民。	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
・農業集落排水施設の適正な維持管理を行う。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
・清潔で快適な住環境を確保する。	

⇒	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない
	名称 単位
⇒	ア 繰出金額 円
	イ
⇒	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない
	名称 単位
⇒	ア 計画処理人口 人
	イ
⇒	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない
	名称 単位
⇒	ア 処理区域内加入率(世帯) %
	イ
⇒	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない
	名称 単位
⇒	ア 未把握

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円	12,705	23,918	13,303	13,000	13,000	13,000		
	事業費計 (A)		千円	12,705	23,918	13,303	13,000	13,000	13,000	0		
	人件費	正規職員従事人数		人								
		延べ業務時間		時間								
		人件費計 (B)		千円	0	0	0	0	0	0	0	
		(A)+(B)		千円	12,705	23,918	13,303	13,000	13,000	13,000	0	
活動指標		アイウ	円	12,705.0	23,918.0	13,303.0	13,000.0	13,000.0	13,000.0			
		アイウ										
対象指標		アイウ	人	660.0	660.0	660.0	660.0	660.0	660.0			
		アイウ										
成果指標		アイウ	%	73.0	73.0	73.0	73.0					
		アイウ			68.7	65.5	65.5	65.5	65.5			
上位成果指標		アイ	未把握									
		アイ										

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	・住民の生活環境改善のため平成2年い事業認可及び施設整備に着手した時点において開始。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	・開始時期と比べ、使用区域内人口が減少してきている状況であり、使用料の徴収額が減少傾向に対し施設の維持管理費は一定の金額で推移しているが、今後施設の老朽化により増えていくと考えられる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	・特に無し。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☐ 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	・繰出し金を一定にするための管理に努める。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	・一定額に沿った事務事業の実施。

事務事業名	芦安農業集落排水事業特別会計繰出金	所属部	建設部	所属課	下水道課
-------	-------------------	-----	-----	-----	------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 ・市民が利用する施設の維持管理に係る財源の一部であるため、結びついている。	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 ・市民の生活環境を向上させることが目的であるため、妥当である。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 ・供用開始区域に変更がないため処理区域内の人口が対象であるため、適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 ・使用人口の減少、高齢化による基本料金の減額(65歳以上半額)規則により、使用料の収納状況が低下し、施設の維持管理にも大きな影響を与えて来ている。既存施設の最低限の維持管理費の確保が重要であり、現状では向上の余地はない。	
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ・施設の維持管理が出来なくなる。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 ・施設の維持管理が出来なくなる。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ・繰入金金の大部分が公債費の元利償還金に充てられており、今後も長期にわたり償還が生じていくため、削減の余地はない。	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ・農業集落排水事業における経営規模(人口の減少、高齢化の使用料半額等により、使用料収納状況の低下)では、人件費の計上は不可能であり、下水道事業特別会計繰出金事業とあわせ行っているため、人件費の削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 ・施設の利用に対しての受益者負担金、使用料を徴収しているため、公平、公正である。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	・芦安農業集落排水事業は、芦安地区の生活環境を改善させ、また河川等の公共用水の水質保全を確保するなど芦安地区に欠かせない施設である。この整備には多額の建設費を要し、その財源の多くは公債費で賄われたところであり、その元利償還金も一般会計からの繰出金によるところとなっている。今後も、施設の維持管理費及び元利償還金も続くため、繰出金の継続が必要である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☒</td> <td>☐</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☒	☐		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☒	☐																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について ①繰出金額を毎年ほぼ一定にするための事務事業の実施。																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 ①維持管理費との整合性。	(5) 事務事業優先度評価結果 <table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>対象外</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	対象外	コスト削減優先度評価結果	対象外																	
成果優先度評価結果	対象外																					
コスト削減優先度評価結果	対象外																					